

令和 7 年度栗東市高齢者保健福祉推進協議会（第 1 回） 議事要旨

1. 日時	令和 7 年 7 月 24 日（木） 9：30～11：30
2. 場所	栗東市役所 2 階 第 1 会議室
3. 出席者	<委員> 10 名 小林委員、大迫委員、今井委員、松並委員、汲田委員、森岡委員、平田委員、 渡部委員、沖田委員、上野委員 <欠席委員> 2 名 新木委員、清水委員
4. 次第	1 開会 2 市民憲章の唱和 3 あいさつ 4 委員委嘱・自己紹介 5 会長・副会長の選出について 6 専門部会員の選出について 7 協議事項 （1）第 9 期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について …（資料 1）（資料 2） （2）第 10 期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定・認知症施策推進計画の策定について…（資料 3） 8 その他 9 閉会

<要旨>

○開会

○市民憲章の唱和

○あいさつ

○委員委嘱・自己紹介

○開催状況の報告

総委員数 12 名のうち、10 名出席。

栗東市高齢者保健福祉推進協議会設置規則第 6 条第 2 項の規定により、会議の成立を報告。

○会長・副会長の選出について

栗東市高齢者保健福祉推進協議会設置規則第 5 条第 1 項にもとづき、平田委員を会長に、松並委員を副会長に選出。

○会議の公開

本日の議事については、特に非公開とすべき事項はないため、会議は公開するものとした。

○専門部会員の選出

栗東市高齢者保健福祉推進協議会設置規則第 3 条第 2 項にもとづき 新木委員、汲田委員、清水委員を選出。

議事

(1) 第9期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について

資料1について、事務局から説明を行った。

委員	資料1の年齢別人口の計画値が令和7年と令和22年で、要介護度別認定者数の計画値が令和7年と令和21年になっているが、何か意図があるのか 計画値が変わると予算の見直しが必要ではないか。
事務局	要介護度別認定者数の表の、令和21年というのは、令和22年の間違いで、資料の修正をお願いしたい。 計画値は3年に一度見直しをしている。 予算繰りは単年度で行っており、足りなければ計画値にプラスして予算要求をしていく形で対処する
委員	予算の増額はみとめてもらえるのか？
事務局	明らかに足りなければ予算繰りをしていく。
事務局	補足だが、計画は3年ごとに見込みをたてている。 予算については計画値をもとに予算要求をするが、足りない時は基金を取り崩して対応している。
委員	要介護認定の審査にばらつきがあると感じるが、認定の基準はあるのか。
事務局	認定基準は国の方で設けられている。 市町の職員が認定調査をし、医師から意見書をもらう一次判定はシステム化されている。 二次判定は認定審査委員会が微調整をして最終決定をしていく。
委員	大きくぶれることはないのか？
事務局	判定がやり方によって大きくぶれることはないが、どんな方が新規で申請してくるかによる。
委員	どれだけ申請があって認定しているかわかるデータはあるのか？ 例えば要支援1を申請したけどダメだったという人もいる。
事務局	要介護認定を申請したら通常は必ず結果が出るところまでいく。 全体として申請して、その結果要支援1～要介護5のどこにはまる、となる。 システム化されているので、全国的に統一されている。
委員	年齢別人口の推移で令和22年度は64歳以下が減少、65歳以上は増加傾向となっている。 元になる収入は減少しているという認識でいるが、先々減っていくという視野を入れた中での計画をしていると認識して大丈夫か？
事務局	大枠の流れは計画で掴んでいる。 総人口ではなく内訳をこまめに見ながら費用と合わせることが必要と考えている。
委員	資料2ページの地域密着型サービスと居宅介護支援の実績割合が他のデイサービスと比べると低い要因は何か。
事務局	実績割合が9割であれば大きな差はないと考えている。 地域密着でいえば施設が休止や廃止をしていることが影響しているのではないかと考えている。
委員	1ページの要支援の認定者数と2ページ3ページの介護予防の人数をみると、要支援が増えたから利用が増えているのか？

事務局	要支援の人数が増えると介護予防サービスの利用が増えるので関連している。 計画値から増えているのは不明。
委員	これが継続していくと予算も関係しているので分析が必要なのではないか。

（１）第９期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について

資料２について、事務局から説明を行った。

委員	資料 11 ページ、医療資源リストを栗東市の HP にリンクを張っているが機能しているのか、リストを活用してほしい。また、地域ケア会議に薬剤師も参加できるように進めて欲しい。
事務局	リストのリンクの活用・促進をしていく。 ケア会議はケアマネや地域包括支援センターの方々が、利用者が本人らしい暮らしを実現する観点で、各専門職の方と連携して支援を行ってきたい。 サービス担当者会議で本人らしい暮らしの実現に向けた協議を行う場合、多職種のケア会議と位置付けている。薬剤師さんも必要時、ケア会議に呼ばれるようケアマネジャーにアピールして欲しい。
委員	資料 16 番の人材確保について、具体的に効果が出始めているのかを教えてください。
事務局	ケアマネの人材確保をするために、研修補助や金額を上げて募集している。 令和 7 年は市内のケアマネさんは 8 人増えているので一定の効果はあると考えている。 ただ昨年開始した事業者もあるので動向を注視したい。
委員	資料の 11 ページ、生き方カフェについて、コロナ禍よりグループワークができなかったが、昨年度からグループワークを開催できるようになった。 資料の 16 ページ、高齢化によって会員数は少なくなっていたが、昨年度は 2 名増えて会員数は 28 名、賛助会員 3 名で活動している。認知症の配偶者を介護している男性介護者の参加があり、男性介護者の状況やいろいろな大変さがあることを実感した。
事務局	資料 11 ページについて、生き方カフェは今年も秋頃に 3 回開催予定としている。
事務局	資料 16 ページについて、介護者の会については、地域包括支援センターが実際に介護されている方を介護者の会を案内され、参加した介護されている方の気持ちが救われていると聞いている。引き続き介護者の会を応援していきたい。
委員	資料 19 ページ、短期集中型サービス C 事業について。 ケア会議に参加することから訪問型サービスに繋がる機会もある。
委員	資料 16 ページ、認知症高齢者等個人賠償責任保険事業は栗東市独自のものか？他の市と連携してやっているものなのか？
事務局	県内でも多くの市でされている事業ではあるが、国に定められたものではなく、市独自のもの。
委員	広域で契約しているのか、それとも栗東市だけでやっていることか？
事務局	それぞれの市がそれぞれの保険会社と契約している形である。
委員	契約内容は市によって微妙に違うのか？
事務局	保険会社が限られているので内容はほぼ一緒となっている。

(2) 第10期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定・認知症施策推進計画の策定について
資料3について、事務局から説明を行った。

委員	介護予防のニーズ調査のやり方は、前回と同じように郵送か？
事務局	回答は郵便で返送もしくはウェブで対応を予定している。
委員	一人でも多くの人の声を聞くために、いろいろなやり方を考えてほしい。
事務局	調査票を工夫して作っていきたい。
委員	介護者の回答率が低いので声を拾いあげる取組を考えてほしい。
事務局	検討する。

○その他

追加資料1により、日程変更の案内。

○閉会